

2. 日本語教育部門

日本語研修コース報告（2012年4月～2013年3月）

後藤寛樹

1 はじめに

大学院入学前予備教育日本語研修コースは、主として、文部科学省によって配置される大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生を対象とした日本語集中コースで、毎年4月と10月に開講し、各期15週間75日のコースを提供している。富山大学留学生センターでは、1999年10月に第1期を開講し、2013年3月には第27期生を送り出した。富山大学に配置される国費研究留学生・教員研修留学生の数は少なく、受講定員に余裕があるため、2000年10月開講の第3期日本語研修コースからは、学内公募を実施して、大学推薦国費研究留学生や私費研究生等も受け入れている。本稿では、2012年4月から開講した第26期と同年10月から開講した第27期について報告する。

2 受講者

第26期は、文部科学省によって配置された予備教育生はゼロであったので、学内公募を実施し、私費留学生3人が受講・修了した。第27期は、文部科学省によって配置された国費教員研修留学生2人、学内公募による大学推薦国費研究留学生、私費大学院生および研究生3人が受講・修了した。受講・修了者は表1の通りである。

表1 日本語研修コース受講・修了者（第26期・第27期）

期	名 前	国 籍	指 導 教 員
26	金 福 山 (キン フクサン)	中 国	富山大学 唐 政 教授
	潘 俊 超 (ハン シュンチョウ)	中 国	富山大学 清家 彰敏 教授
	劉 燕 婷 (リュウ エンテイ)	中 国	富山大学 唐 政 教授
27	アジアヌット パペトワ アドックス	ウ ガ ン ダ	富山大学 岡崎 浩幸 准教授
	ナイン ウィン ソウ	ミ ャ ン マ ー	富山大学 岡崎 浩幸 准教授
	ティオジオ エドヴィジ ロジン	カ メ ル ー ン	富山大学 上田 晃 教授
	モハンマド アシュラフル ラハマン	バ ン グ ラ デ シ ュ	富山大学 川原 茂敬 教授
	李 夢 澤 (リ ボウタク)	中 国	富山大学 チャピ ゲンツイ 教授

※上記の受講者に加え、第26期は2人、第27期は1人の私費研究生が受講していた。第26期は、1人が授業についていけずに受講を辞退、もう1人は研究生そのものを辞めてしまったために受講資格がなくなった。第27期は、専門課程での学習が忙しくなり、受講を辞退した。

3 コース担当者

第26期、第27期ともに、センター専任教員5人（出原節子、加藤扶久美、後藤寛樹、副島健治、濱田美和）と、非常勤講師7人（加藤敬子、高島智美、中河和子、永山香織、藤田佐和子、松岡裕見子、横堀慶子）が授業を担当し、後藤寛樹がコースのコーディネートをを行った。

4 コーススケジュール

第26期は、2012年4月6日(金)に開講式、同年9月28日(金)に修了式を、第27期は、2012年10月9日(火)に開講式、2013年3月1日(金)に修了式を行い、どちらの期も15週間75日の集中授業を行った。各期の主なスケジュールは以下の通りである。

<第26期>

2012年 4月4日(水)	学内公募選考
4月5日(木)	コースオリエンテーション, 挨拶の練習, ひらがな
4月6日(金)	開講式
4月9日(月)	授業開始
5月23日(水)	異文化交流パーティー
6月1日(金)	フィールドトリップ(富山市民俗民芸村)
6月19日(火)	「私の国」発表会
7月21日(土)	ホームビジット
7月26日(木)	授業終了
7月27日(金)～8月1日(水)	スピーチ練習, 文集作成
8月2日(木)	スピーチ発表会(「私の専門」発表会)
9月28日(金)	修了式

<第27期>

2012年 10月3日(水)	文科省配置学生:諸手続き
10月4日(木)	文科省配置学生:オリエンテーション, 挨拶の練習, ひらがな
10月5日(金)	学内公募選考, 挨拶の練習
10月9日(火)	開講式, 学内公募受講生:オリエンテーション, ひらがな
10月10日(水)	授業開始
11月14日(水)	異文化交流パーティー
11月30日(金)	フィールドトリップ(富山市民俗民芸村)
12月18日(火)	「私の国」発表会
12月25日(火)～2013年1月4日(金)	冬季休業
2013年 1月26日(土)～27日(日)	ホームステイ, ホームビジット(26日のみ)
2月8日(金)	授業終了
2月12日(火)～18日(月)	スピーチ練習, 文集作成
2月19日(火)	スピーチ発表会(「私の専門」発表会)
3月1日(金)	修了式

5 コース内容

授業は月曜日から金曜日まで1日4コマで、日本語と日本事情、コンピュータを中心とした内容で行った。初級クラスの「文法」10コマ中8コマと「語彙・表現」「聴解」「文字・漢字」「会話」各1コマの合計12コマ、および、中級クラスの午前中の10コマ(「文法」8コマ,「聴解」「会話」各1コマ)は日本語課外補講の授業と合同で開講される授業である。通常の授業の他に、学生の個人の習熟度やニーズに合わせた指導を行うために、特別指導も行った。コース後半からは、専門課程への橋渡しの教育として、自分の専門についての口頭発表とレポート作成を行う「私の専門」プロジェクトも課した。

第26期、第27期ともに、コース開講当初は初級・中級の2つのレベルの受講者がおり、2つのクラ

スに分けて授業を行っていた。しかし既に述べたように、第26期2人、第27期1人の学生が途中でコースを辞めることになり、それが中級クラスの学生で、コースに残ったのは初級レベルの学生のみであったため、途中でクラスの編成を組み直すことになった。具体的には、第26期、第27期ともに、午後の一部のクラスで、学習がやや遅れ気味の学生を別クラスとし、少しでも他の学生に追いつけるよう、習熟度別に授業を行った。また、第27期はコンピュータのクラスも2つに分け、余裕をもって個々の指導に当たれるようにした。表2、3にそれぞれの時間割を示す。

5.1 時間割

表2 第26期日本語研修コース時間割

	1 (8:45 ~ 10:15)		2 (10:30 ~ 12:00)		3 (13:00 ~ 14:30)		4 (14:45 ~ 16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (加藤敬)	文法 A (高島)	文法 (加藤敬)	文法 A (高島)	語彙・表現 (加藤扶)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	読解 (加藤扶)
火	文法 (後藤)	聴解 (濱田)	文法 (後藤)	会話 (副島)	聴解 (濱田)	作文 (藤田)	特別指導 (加藤扶・副島)	特別指導 (濱田・後藤)
水	文法 (横堀)	文法 A (中河)	文法 (横堀)	文法 A (中河)	文字・漢字 (加藤扶)	文字・漢字 (濱田)	日本事情 (出原)	
木	文法 (高島)	文法 B (副島)	文法 (高島)	文法 B (副島)	読解・作文 (横堀)	コンピュータ (後藤)	コンピュータ (後藤)	文法 C (副島)
金	文法 (永山)	文法 B (松岡)	文法 (永山)	文法 B (松岡)	会話 (後藤)	文法 C (副島)	特別指導 (濱田・後藤)	特別指導 (加藤扶・副島)

※網かけのクラスは日本語研修コース専用クラス、それ以外は日本語課外補講との合同クラスである。
 ※中級レベルの受講者が辞退してからは、午後の中級のクラスを主に習得が遅れている受講者の手当ての時間として利用した。

表3 第27期日本語研修コース時間割

	1 (8:45 ~ 10:15)		2 (10:30 ~ 12:00)		3 (13:00 ~ 14:30)		4 (14:45 ~ 16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (加藤敬)	文法 A (高島)	文法 (加藤敬)	文法 A (高島)	聴解 (加藤扶)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	読解 (加藤扶)
火	文法 (後藤)	聴解 (加藤扶)	文法 (後藤)	会話 (副島)	語彙・表現 (藤田)	作文 (加藤扶)	特別指導 (加藤扶・副島)	特別指導 (濱田・後藤)
水	文法 (横堀)	文法 A (中河)	文法 (横堀)	文法 A (中河)	文字・漢字 (加藤扶)	文字・漢字 (濱田)	日本事情 (出原)	
木	文法 (高島)	文法 B (副島)	文法 (高島)	文法 B (副島)	読解・作文 (横堀)	コンピュータ (後藤)	コンピュータ (後藤)	文法 C (副島)
金	文法 (永山)	文法 B (松岡)	文法 (永山)	文法 B (松岡)	会話 (後藤)	文法 C (副島)	特別指導 (濱田・後藤)	特別指導 (加藤扶・副島)

※網かけのクラスは日本語研修コース専用クラス、それ以外は日本語課外補講との合同クラスである。
 ※中級レベルの受講者が辞退してからは、午後の中級のクラスを主に習得が遅れている受講者の手当ての時間として利用した。

5.2 日本語科目

基本的な日本語文法を習得し、運用できるようになること、文字についてもひらがなやカタカナ、基本的な漢字を習得することを目的として授業を行った。

また、独自開発教材を用いて、正しい日本語の発音を身に付けるための指導も行った。

[使用テキスト] (主なもののみ)

文法	『みんなの日本語初級 I, II』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 I, II 書いて覚える文型練習帳』(スリーエーネットワーク) 『毎日の発音練習』(独自開発テキスト)
聴解	『みんなの日本語初級 I, II 聴解タスク 25』(スリーエーネットワーク) 『わくわく文法リスニング 99』(凡人社) 『絵とタスクで学ぶにほんご』(凡人社) 『にほんごきいてはなして』(ジャパントイムズ) 『楽しく聞こう』(凡人社)
語彙・表現 読解・作文	『みんなの日本語初級 I, II』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 I, II 初級で読めるトピック 25』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語初級 やさしい作文』(スリーエーネットワーク) 『楽しく読もう』(凡人社)
文字・漢字	『留学生のための漢字の教科書 初級 300』(国書刊行会)(第 26 期) 『ストーリーで覚える漢字 300』(くろしお出版)(第 27 期)
会話	『クラス活動集 101』『クラス活動集 131』(スリーエーネットワーク) 『楽しく話そう』(凡人社) 『にほんごきいてはなして』(ジャパントイムズ)

5.3 日本事情

学内から国際交流学生ボランティアとして募集した日本人学生との交流・活動を通して、日本社会について学び、さらには習得した日本語を実際に使う機会を提供する。

また、留学生と日本人学生が共に自国の言語や文化に対する関心を高め、異文化を理解し、異文化コミュニケーション能力を養うことを目指す。

5.4 コンピュータ

この授業では、留学生が日本語環境でコンピュータの基本的な操作をすることができ、ひらがなやカタカナ、さらに漢字なども使って、正しい日本語の入力ができるようになることを目指す。また、あわせて、大学での勉学に必要な基本的な情報リテラシーの習得も目指している。

日本語のコンピュータ用語には漢字語やカタカナ語が多いために難解であったり、入力においても促音や拗音といった特殊音の入力が難しいなど、外国人が日本語環境のコンピュータを用いる際に特有な問題があるが、この授業ではそれを克服できるように指導することが大きな目的である。また、専門課程での勉学に備えて、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを使えるようになることも目指し、同時に日本語での電子メールの書き方、インターネットの使い方、およびそれに付随する著作権やセキュリティ対策などについても指導を行った。

[使用テキスト] 『日本語でできる！外国人のためのパソコンのきほん』(スリーエーネットワーク)

5.5 口頭発表プロジェクト

5.5.1 口頭発表プロジェクト

日本語研修コースに在籍する留学生は、そのほとんどが大学院へ進学する予定の学生であり、コースが始まって半年後にはそれぞれの専門課程に進んで専門の勉強や研究を始めなければならない。教員研修留学生についても、このコースが終わると、教育に関するさまざまな授業を日本語で受けなければならないし、授業見学を通じて現場の教員とのやりとりが必要となる場面も多い。本コースでは、留学生が日本の大学院での研究活動を効率的に進められるように、スピーチ発表会で自分の専門の内容を簡単に説明する口頭発表を行い、さらにレポートにまとめるというプロジェクトを学生に課している。学生それぞれの留学目的に合わせて、大学院進学予定の学生はこれまで自国で研究してきた内容と富山大学で研究したい内容について、教員研修留学生は自国の教育制度の説明と富山大学で学びたい内容について、それぞれ原稿とスライドを作成してスピーチ発表会で発表し、レポートにまとめるというプロジェクトである。この活動は、一般日本語、コンピュータ、そして専門の学習が一体となって行われるものである。

具体的には、留学生は自分の専門について、専門用語を調べたり、必要な情報をインターネットなどから得たり、あるいは必要に応じて所属研究室の指導教員や学生に質問したりした上で、作文の時間に発表原稿を作成し、コンピュータの時間にプレゼンテーションソフトを使用してスライドを準備した。その後練習を重ね、最終的には、コース修了前に開催されるスピーチ発表会で、作成したスライドを示しながらプレゼンテーションを行った(5.5.2参照)。さらに、学生は発表原稿をもとにしてレポートを作成した。学生の作成したレポートは、第26期、第27期のものをまとめ、日本語研修コース修了レポート集『らいちょう』として発行した(5.5.3参照)。

5.5.2 スピーチ発表会

スピーチ発表会は、第26期は2012年8月2日(木)に、第27期は2013年2月19日(火)に、それぞれ午後1時半より開催した。第26期は15人、第27期は25人の出席者があった。出席者は学生の指導教員やセンターに関係のある教員、学務部学生支援グループ留学支援チーム職員、富山大学の留学生および日本人学生などである。

留学生は、発表会に向けて、指導教員、同じ研究室の先輩留学生、日本人学生に協力してもらいながら熱心に準備を進めた。発表会に向けた準備は、作文とコンピュータの授業の中で行ったほか、日本語教育部門の4人の教員がそれぞれ分担した学生に対して、授業時間以外にも原稿チェック、発表練習などの指導を行った。

5.5.3 修了レポート集作成

スピーチ発表会で口頭発表を行った原稿をもとにレポートを作成し、修了レポート集『らいちょう』として発行した。留学生は各自の専門についてのレポートを作成したほか、それぞれの期中表紙、寄せ書き、写真のページなどを共同で作成した。各自の能力を発揮し、話し合いを進めながら、コンピュータの授業で学んださまざまな文書の作り方などを能率良く活かし、完成度の高い文集を作り上げた。

6 成績評価

メインテキスト(『みんなの日本語』)に基づく定期試験を7回実施した。この定期試験は、筆記試験(文法、作文、読解)、聴解試験、会話試験から構成されるものである。また、「語彙・表現」「文字・漢字」のクラスでは期末試験を実施した。口頭発表プロジェクトについても、原稿と発表会当日の発表を教員が採点し、プロジェクトの成績を出した。コース修了時に、定期試験、その他の試験、口頭発表プロジェクトの成績を総合して、コース全体の成績判定を行い、コースへの出席率も含めた成績表を作成

して、受講者本人と指導教員へ通知した。

7 コース評価

日本語研修コースでは、コース改善に役立てるため、学期終了時にコース評価を実施している。実施前に、成績等には全く影響しないことを伝えた上で、授業の内容、テキスト、教師の教え方、コンピュータ授業、口頭発表プロジェクト、日本人学生との時間、ホームステイ・ホームビジットの各項目について、調査を行った。回答方法は、5段階で評点をつけるものと、与えられた選択肢から該当する答えを選択するものがある。また、自由意見は日本語または英語で記入させた。それぞれの期の結果を表4、表5に示す。自由意見については、英語で書かれたものは日本語に翻訳して、日本語の誤りがあるものは訂正して掲載する。翻訳・訂正ともにコーディネーターの判断によって行っている。

表4 第26期コース評価

質問及び回答結果 (5段階評価の場合は点が高いほど よい評価であることを示す)	自由意見
(コース全体) コースは役に立ったか： 5.0 スケジュールはどうだったか： 忙しい3人 日本語は上達したか： した1人、ふつう2人	
(日本語の授業) 授業はどうだったか： 4.7 教科書はどうだったか： 4.7 ハンドアウトはどうだったか： 4.7 教師の教え方はどうだったか： 5.0	
(テスト) テストはどうだったか： 4.0 テストは多かったか： 多い3人	
(コンピュータ授業) 授業は役に立ったか： 5.0 テキストはどうだったか： 5.0 教え方はどうだったか： 5.0	
(口頭発表プロジェクト) プロジェクトはたいへんだったか： たいへん1人、ふつう2人 プロジェクトは役に立ったか： 5.0 発表会は役に立ったか： 4.7	
(見学) 見学は楽しかったか： はい3人 見学場所は適当だったか： はい3人 見学の時期は適当だったか： はい3人	どんなところが楽しかったか：(記述なし)

<p>(ホームステイ・ホームビジット)</p> <p>ホームステイ・ホームビジットは楽しかったか： はい3人</p> <p>時期は適当だったか： はい3人</p>	<p>どんなところが楽しかったか：(記述なし)</p>
<p>(日本事情)</p> <p>日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p> <p>日本の文化を知らなければならぬと思うか： 思う3人</p>	<p>・いいと思いました。 ・おもしろい。 ・たのしいです。</p> <p>どうしてそう思うか。：(記述なし)</p>

表5 第27期コース評価

<p>質問及び回答結果 (5段階評価の場合は点が高いほど よい評価であることを示す)</p>	自由意見
<p>(コース全体)</p> <p>コースは役に立ったか： 5.0</p> <p>スケジュールはどうだったか： 忙しい3人, ちょうどいい2人</p> <p>日本語は上達したか： した4人, 普通1人</p>	
<p>(日本語の授業)</p> <p>授業はどうだったか： 5.0</p> <p>教科書はどうだったか： 5.0</p> <p>ハンドアウトはどうだったか： 4.8</p> <p>教師の教え方はどうだったか： 5.0</p>	
<p>(テスト)</p> <p>テストはどうだったか： 4.6</p> <p>テストは多かったか： ちょうどよい5人</p>	
<p>(コンピュータ授業)</p> <p>授業は役に立ったか： 4.6</p> <p>教材はどうだったか： 4.8</p> <p>教え方はどうだったか： 5.0</p>	
<p>(口頭発表プロジェクト)</p> <p>プロジェクトはたいへんだったか： たいへん1人, ふつう4人</p> <p>プロジェクトは役に立ったか： 4.8</p> <p>発表会は役に立ったか： 4.8</p>	
<p>(見学)</p> <p>見学は楽しかったか： はい5人</p>	<p>何が楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんものを見ました。 ・日本の伝統についてたくさん勉強しました。 ・薬の作り方などを見ることができた。

<p>見学場所は適当だったか： はい5人</p> <p>見学の時期は適当だったか： はい4人 いいえ1人</p>	<p>いつ頃行きたいか</p> <ul style="list-style-type: none"> • もっと長く見学したかったです。 • 時期は適当だったが、天気がよい日に行きたい。
<p>(ホームステイ・ホームビジット) ホームステイ・ホームビジットは楽しかったか： はい5人</p> <p>時期は適当だったか： はい3人 いいえ2人</p>	<p>何が楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本のうちに泊まったのが楽しかった。 • 家族がとてもやさしかった。 • お母さんがとても親切だった。 <p>• もう一度行きたい</p> <p>いつ頃行きたいか</p> <ul style="list-style-type: none"> • もっと長くいたかった。 • あたたくくなってから行きたい。
<p>(日本事情) 日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 日本人学生がいろいろ手伝ってくれたし、よかった。 • うれしいです。 • いいと思います。 • もっとたくさん時間があるといいです。 • たのしかった。
<p>日本の文化を知らなければならぬと思うか： 思う5人</p>	<p>どうしてそう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分が置かれた場面でどのように振る舞えばいいか知り、コミュニティに入っていくのに役に立つ • 日本と自分の国では文化が違いますから。 • 日本の文化は特別だからです。 • いつも日本人と話して、日本人の友達がほしいですから。 • 日本人は親切だし、真面目に働くからです。

第26期、第27期ともに、コースは役に立ったかという問いに、全員が5段階評点の5と回答し、また、自己の日本語の上達度についての問いにも、半数以上が「上達した」と答えており、これらの点から受講者のコースに対する満足度は高かったということがうかがえる。コースのスケジュールについては、「ちょうどよい」と答えたのが2人、「忙しい」と答えたのが6人と、「忙しい」という答えが多数を占めているが、「忙しい」と答えたのはすべて研究生あるいは大学院生として富山大学に在籍する学生であった。特に第27期は既に実験や研究を開始して忙しい学生が複数おり、朝から夕方まで続く集中コースでの学習は大変だと感じられたのかもしれない。一方、「ちょうどよい」と答えたのは教員研修生で、彼らはまだ教育分野の専門的な研究を開始しておらず、比較的余裕があったためにこのような回答になったのではないかと考えられる。

日本語の授業についての問いでは、5段階評点で平均4.7以上の高い評価が得られている。また、テストについては第26期よりも第27期のほうがやや高い評価が得られ、テストの頻度についても第26期が全員「多い」と答えたのに対して、第27期は全員が「ちょうどいい」と答えている。テストの内容や頻度はどちらの期でも同じであるので、何がこの差の原因になっているのかは、この結果からだけではわからない。

コンピュータの授業については、反対に第26期のほうがやや高い評価が得られた。これについても、この結果を見ただけでは、何がこの差の原因となっているかはわからないが、おそらく受講者のコンピュータリテラシーの差によってこのような結果が生じているのではないだろうか。口頭発表プロジェクトに関しては、どちらの期も平均で4.7以上の回答が得られており、プロジェクトの意義や有効性を受講者自身が感じ取ることができていると言ってよいだろう。

見学、ホームステイ・ホームビジット、日本事情についても全般的に良い評価が得られた。見学やホームビジットは、日本の文化や習慣を直接体験できる場として、また日本事情の授業は、日本語のクラスで学んだ日本語を実際に運用できる場として、とらえられているようである。

第26期、第27期ともに、自由記述にはほとんどコメントが書かれなかった。できるだけ多くの声を拾い上げるために、個別にインタビューを実施するなど、授業評価のあり方を検討してみる必要もあるかもしれない。

8 おわりに

大学院入学前予備教育・日本語研修コースは、2013年3月に第27期生を送り出した。これまでに文部科学省からの配置学生、学内措置による受講者を合わせて174人がこのコースを修了している。

初級クラスについては、日本語課外補講との合同クラスがあることにより、日本語研修コース単独で授業を行っていた頃よりも授業が活発化していると感じられる。期によって受講者の人数や国籍、留学の目的などは異なるが、どのような構成であっても、合同クラスの存在はどちらのプログラムを受講している学生にとっても、プラスになっていると思われる。

一方で、中級クラスについては、第26期、第27期ともに、コース開講当初は受講者がいたにも関わらず、既に述べたようにコース途中でその受講者が受講を辞退し、結果として日本語研修コースとして中級クラスを受ける学生はゼロとなってしまった。辞退の理由は、クラスの雰囲気が合わなかった、研究生を辞めてしまった、専門の勉強が忙しくなったということで、必ずしもコースそのものが直接の原因となっているとは言えないが、初級クラスとは対照的に日本語課外補講との合同化があまりうまくいっていない状況もあるので、開講するコマ数、レベルなど、いろいろな面での見直しを進めていく必要があるだろう。昨年度の年報でも触れたが、見直しを進めていく際には、日本語研修コースのカリキュラムを検討するだけでなく、留学生センターの他の日本語プログラムとも連携をとりながら、改善の道を探っていかなければならない。日本語ゼロレベルで来日した留学生が、在学中に初級から段階的に次のレベルへと進み、自己の日本語力の伸びを感じながら、専門課程での研究に打ち込めるようなプログラムが提供できるよう、留学生センターの日本語プログラム全体の枠組みを検討したうえで、個々のプログラムやレベルの教育内容を具体化していく必要があるだろう。